

『前進』「決定版碧川かたの生涯」発行成る

発行のことは、日本海新聞3月17日に掲載、米子での記念講演会は同紙4月16日、又、たつの市でのことは神戸新聞4月13日に記事が出たので、会報では省略します。

第23回研究会を令和5年7月6日（木）に鳥取市やまびこ館で行いました。

講演「兵十自線の戊辰戦争 因州兵の甲

いについて」 講師 伊藤康晴氏

戊辰戦争は慶応4年1月4日、鳥羽伏見街道

で始まり、鎮庄のため、和田耆岐率いる東山道軍

は2月13日に京都を出発し、3月6日の甲州勝

沼戦争で初めての戦死者を出した。5月21日小

田原・箱根戦争で殺害された中井範五郎他合葬

墓石には堀元九郎が奉献した石灯籠が添えられ

ている。

終結に近い9月、仙台藩の要衝、籠巻峠戦争でも

戦死者・病死者が出て、相馬市洞雲寺（曹洞宗）

で弔われた。天野祐治日記によると、20日出立の時、村松（二十歳）と村尾は病気なので残して行った。10月8日に村松儀、9月29日中村

表大病院において死

去の知らせが村尾清

吉より届いたとある。



相馬市洞雲寺

左：荒井又蔵の墓 中央：太田清左衛門・喜多郎文次郎・若郎惣次郎・大森嘉吉・浜田五郎右衛門の5名合葬 右：村松幸三郎の墓

2000年伊藤氏撮影



同右相馬市洞雲寺

東北大震災（2011年3月）で5名合葬の墓が倒れ、破損した。

2011年6月伊藤氏撮

戦地で埋葬され、鳥取へは多くは天徳

寺（曹洞宗）で祀られている。鳥取市の護

国神社社務所前に近藤類蔵（7月26日広

野で戦死）の供養塔がある。

かた研究会の最近の話題4つ

一、15歳でかたを産み、30歳で河原に嫁いだ、実母みねの墓が天理教であること。鳥取市西町の沖田家にいる頃からなのか？河原で布教活動をしていたと伝えられる。

一、かたに宛てた前田小太郎氏の手紙がたつの霞城館の道夫寄贈の中から出てきた。差出の住所は、鳥取市湯所町とあるが、現在子孫の方と連絡がとれないものか、探しています。前田善積の長男、日露戦争後大村連隊大隊長になり、大正十二年満期退職している。四男は昭和六年生れの庸言氏、五男は同八年生れの庸廣氏がいる。

一、和田家の湯所下屋敷（現在の湯所サシマート周辺）の土地台帳を見ると、昭和九年六月から昭和十六年七月まで前田小太郎氏が土地の所有者であることがわかる。

一、昭和五十年に手書きで書かれた河越太郎著の『よみがえれ赤とんぼの母』。追研究し、復刻本に取り組んでいます。

霞城館とたつのかたの会では「かたの疎開日記」など、少し昔の文字で書かれた読みにくい、かた直筆の日記を、月1回のペースで勉強会をしておられるそうです。そして今年度、かたの日記・和歌などの本を出版される予定だそうです。

「兵士目線の戊辰戦争 因州兵の弔い

について」を聴講して

松本美佐子

七月六日、鳥取市のやまびこ館にて、伊藤康晴学芸員から戊辰戦争の進軍先で因州藩の兵士がどのように葬られたかを例を挙げて詳しく解説していただきました。

戊辰戦争についての知識はほんの教科書程度しか持ち合わせておらず、実際の戦死者のことについての知識は皆無でした。

お話では、因州藩の戦死者は約100人で、その多くは農民兵であったこと、また、因州藩が官軍側であったことから墓石や石塔が建てられるなど、丁寧な埋葬が行われたということでした。

慶応4年3月6日、甲州勝沼戦争で戦死した木村伊助は、すぐに山梨県甲州市の浄土宗護念寺に埋葬され、金五両(士族だった場合は十両)の祠堂料が納められました。浄土宗の戒名にみられる「忠誉」の入った戒名「寂心院忠誉静現光圓居士」をいただき、その後、鳥取市の曹洞宗天徳寺に戒名が送付され、「忠誉」を抜いた形での戒名が過去帳に記載されているそうです。

また、宇都宮戦争、二の丸銃撃戦で亡くなった石田仁三郎は、隊長であった天野祐治によって苗字が付けられ農民から徒士身分となっています。この戦争で亡くなった農兵には全員苗字が与えられたというのは驚きでした。

この他にも数例の紹介がありました。が、戦場となった日本各地の戦死者の墓石・石塔は大切に遺され、語り継がれ祀られているそうです。

勝てば官軍という言葉がありますが新政府軍であれ旧幕府軍であれ、どちらも日本の将来を真剣に考えての戦いだつたことを思うと複雑な気持ちになります。

碧川かたの養父堀元九郎、和田信美らの命をかけた戦いが確かにあったのだと実感した講演会でした。



松本美佐子さん

河越太郎氏の長男、村田淳郎さんが鳥取に

ひさしぶりに来られました。

酷暑の7月28日、河越太郎氏の長男、村田淳郎さんが息子さんのご家族と5人で鳥取に来

られ、お墓詣り、菩提寺、砂丘などみて岩美町の旅館に泊まれ、翌日は三朝泊、米子で帰られました。

四井は岩美の旅館に会いに行き、息子さん・

その奥様・村田さんにも江戸時代までの村田家と河越家のこと、側用人の黒田権之助を暗殺し

た本圀寺事件、二十士への仇討ちに河越家の親族がいることなど、お話ししました。

息子さんは歴史は嫌いではないと言われ、今後も連絡が取れることになりました。

「次回研究会のお知らせ」

★9月に湯梨浜町で研究会をします。

「日時」 9月20日(水)

午後1時～3時

12時54分ごろから準備して  
います。

「会場」 湯梨浜町龍徳寺

「テーマ」

「松崎陣屋建物を考える」小畑公寛氏  
仮「ルーツは和田家老？」早田美保氏

今回は湯梨浜会員には案内のものが  
きを出していますが、会員外の方で、  
ご参加希望の方は前日までに電話で  
申し込んでください。

(0857 73 1051

会長四井)